

いっ ばん てき らく が け かた
「一般的な落書きの消し方」

おも ほう ほう
主に次の2つの方法があります。

① ぬ ぬって消す!! (と りょう うわ め 塗料で上塗りする)

落書きを塗料で塗りつぶしてしまう方法です。下地がコンクリート、レンガ等の場合に適しており、大きな落書きでも手早く消去できます。

ひつ ぶつ
必要なもの

- ・塗料・薄め液(塗料にあったもの)
- ・ハケ・小分け用の缶、受け皿
- ・マスキングテープ(又は布製ガムテープ)
- ・ブルーシート、新聞紙
- ・軍手、ゴム手袋・汚れてもよい服装 等



べん り
あれば便利なもの

- ・ローラーバケ、トレイ
- ・簡易レインコート(汚れ防止に)
- ・脚立 等



しょう きょ て じゆん
消去の手順

①

まず、塗る範囲を決めます。落書きをマスキングテープ等で囲み、その中を塗る方法と、一定の高さにテープを貼り、そこから下を塗る方法が一般的です。



②

塗料を塗らない所を、新聞紙やブルーシート等でカバーしておきます。足下にも敷いておくといでしょう。



③

ハケ等で塗り進めます。塗料が跳ねないようにゆっくり塗っていき、落書きが完全に見えなくなれば完成です。(場所によっては、「ペンキ塗りたて」等の表示をしておきましょう!)

注意!

あくまで一般的な手順であり、必ず、使用する塗料等の使用方法や使用上の注意等をよく確認してください。

塗料について

塗料は、大きく分けて水性塗料と油性塗料があります。(下地にあったものを選びましょう。油性塗料を薄めるには専用の薄め液(溶剤)が必要です。)落書き消去の場合、塗料が薄いと十分に消去できないこともあるため、多めに準備することをお勧めします。



主な注意事項

- 下地の材質に合った塗料やハケ等を選びましょう。
- 下地の汚れ等を落としてから塗るとききれいに仕上がり、塗装が長持ちします。
- 落書きを塗りつぶすため、塗料は少し厚めに塗るとよいでしょう。
- 周辺を汚さないように、周りの建物や塀等に十分注意するとともに、使った資材等はきちんと片づけましょう。

注意!

落書き消しは街頭での作業です。つい作業に熱中するあまり、車や自転車とぶつからないよう、交通事故に巻き込まれないようにしましょう。安全だけに気を配る方を配置することが大切です。

② 拭いて消す!! (消去剤等で消去する)

落書き消去剤等で落書きを拭き取る方法です。下地が金属やタイル類等の場合に適しており、小さな落書きなら手間をかけずに消去できます。

必要なもの

- ・落書き消去剤
- ・雑巾、ぼろきれ
- ・軍手、ゴム手袋
- ・汚れてもよい服装 等

あれば便利なもの

- ・スポンジ、たわし
- ・脚立 等



消去の手順

①

落書きの上から消去剤等をスプレーします。
(消去剤によってはスプレーの後、水等で洗い流した方がよい場合もあります。)



②

少し待って雑巾等で拭き取ります。落ちにくい場合には、さらに消去剤等をつけ、スポンジ、たわし等で擦ります。

注意!

あくまで一般的な手順であり、必ず、使用する消去剤等の使用方法や使用上の注意等をよく確認してください。

- 落書きの塗料の種類や下地の材質によっては落ちにくいことがあります。
- 下地や下の塗装を痛めることがありますので、必ず下地等に合ったものを使用するとともに、目立たないところで試してから行いましょう。

ご存じですか?

最近、市街地等では、文字や絵をかいたステッカーをいろいろなところに貼り付ける行為が目立っています。ステッカーは、粘着力が強い^{ねんちやくりよく}ため困りものですが、市販のステッカーはがし剤やヘラ等を使ってはがすのが一般的です。ただし、下地を傷つけないように注意する必要があります。



この手引の作成にあたりボランティアで ご協力いただいた方々 (敬称略)

落書き消去地域活動マニュアル作成検討委員会委員 (50音順)

- 太田 直宏 (岡山県青年団体連絡協議会 会長)
- 岡崎 久弥 (落書き調査隊 隊長)
- 小野 浩一 (岡山市内山下地区連合町内会 会長)
- 高橋 憲志 ((株) 岡憲塗装 代表取締役)
- 横山 卓司 (岡山市商店会連合会 会長)

編集・デザイン

- 石井 建次 ((株) ベックワン 代表取締役)
- 平松 美由紀 (岡山県立大学デザイン学部3年生)

(肩書きは初版作成時点)